

平成28年度 第1回千葉県スポーツ推進審議会 議事録

開催日 平成28年7月1日(金)
 時間 14時～16時30分
 会場 千葉県スポーツ科学センター
 3階 第1研修室
 (千葉市稲毛区天台町323)

<出席委員> (敬称略50音順)

荒川 昇 高坂 俊介 高橋 直子 浪越 一喜 畑佐 耕一郎 花岡 伸和 柳川 尚子

<オブザーバー>

越川 均 石井 茂

<出席事務局職員>

千葉県教育庁

教育次長 神子 和夫

健康福祉部 健康づくり支援課 地域健康づくり班
 健康づくり推進班

主 事 福原 由貴

副主査 蒲生 忠明

障害福祉課 地域生活支援班

主 事 徳元 信彦

高齢者福祉課 生きがい活動推進班

主 査 及川 明美

商工労働部 観光企画課 観光企画室

観光推進委員 池田 清則

県土整備部 公園緑地課 県立公園室

技 師 鎌田 斉

総合企画部 東京オリンピック・パラリンピック推進課 戦略推進班

班 長 天野 栄之

東京オリンピック・パラリンピック推進課 国際スポーツ誘致班

主 査 進藤 周介

企画管理部 教育政策課 教育立県推進室推進班

副主幹 高知尾 敦博

教育振興部 生涯学習課 学校・家庭・地域連携室

副主幹 高見 美樹

学校安全保健課 給 食 班

指導主事 合田 聖

指 導 課 教 育 課 程 室

指導主事 松井 小百合

特別支援教育課 教育課程指導室

指導主事 篠宮 輝幸

体 育 課

課 長 山崎 成夫

施設・調整班

班 長 桐原 孝文

同

副主幹 鈴木 哲夫

学校体育班

班 長 福田 武

スポーツ推進室

副参事兼室長 北林 栄峰

スポーツ推進室競技スポーツ班

班 長 佐藤 道広

スポーツ推進室生涯スポーツ班

班 長 金子 保敏

同

指導主事 橋爪 弘一

同

指導主事 吉田 浩一

同

指導主事 田口 富一

同

指導主事 角田 淳

同

指導主事 堀江 俊介

ちばアクアラインマラソン準備室

副主幹 田中 康之

次第

- (1) 開会
- (2) 委員及びオブザーバー紹介
- (3) 教育次長挨拶
- (4) 会長・副会長の選出
- (5) 議事

〔報告事項〕

- ①国民体育大会及び全国障害者スポーツ大会について
- ②東京オリンピック・パラリンピックアスリート強化・支援事業について
- ③「第11次千葉県体育・スポーツ推進計画」平成27年度の点検・評価について
- ④平成27年度第2回「千葉県スポーツ推進審議会」における委員からの意見
- ⑤その他（ちばアクアラインマラソン2016・オリンピック教室・1000km縦断リレー・日韓交流）

〔審議事項1〕

- ①「第11次千葉県体育・スポーツ推進計画」平成28年度重点施策推進計画（工程表）について
- ②「第11次千葉県体育・スポーツ推進計画」平成28年度関連事業の予算概要について
- ③平成28年度「県民の運動・スポーツに関するアンケート調査」の実施について

〔審議事項2〕

- ①「第12次千葉県体育・スポーツ推進計画」の策定・計画の方向性について
- ②「第12次千葉県体育・スポーツ推進計画」の策定・骨子（案）について
- ③「第12次千葉県体育・スポーツ推進計画」の策定・計画の内容について
- ④「第12次千葉県体育・スポーツ推進計画」の策定・計画の構成図（案）について
- ⑤「第12次千葉県体育・スポーツ推進計画」の策定・今後のスケジュールについて

- (6) 閉会

配布資料

- ・資料1 関連法案等
- ・資料2 報告事項
- ・資料3 審議事項
- ・資料4 第12次千葉県体育・スポーツ推進計画の策定にかかる資料

別添資料

- ・第70回国民体育大会リーフレット
- ・第11次千葉県体育・スポーツ推進計画の平成27年度点検・評価報告（最終版）
- ・第11次千葉県体育・スポーツ推進計画平成28年度重点施策推進計画（工程表）
- ・日韓スポーツ交流に関するリーフレット

スポーツ推進審議会 議事録

事務局

本日は御多用のところ、御出席いただきありがとうございます。

会の進行を務めさせていただきます、体育課副参事兼スポーツ推進室長です。どうぞよろしくお願い致します。

はじめに、平成28年5月20日の教育委員会会議で承認後、平成28年から30年の2年間、千葉県スポーツ推進審議会委員に任命されました10名の皆様を御紹介します。

- ・荒川 昇（あらかわ のぼる）様です。
- ・宇佐見 文絵（うさみ ふみえ）様です。本日は欠席でございます。
- ・黒川 仁美（くろかわ ひとみ）様です。本日は欠席でございます。
- ・高坂 俊介（こうさか しゅんすけ）様です
- ・高橋 直子（たかはし なおこ）様です。
- ・中村 恭子（なかむら きょうこ）様です。本日は欠席でございます。
- ・浪越 一喜（なみこし いつき）様です。
- ・畑佐 耕一郎（はたさ こういちろう）様です。
- ・花岡 伸和（はなおか のぶかず）様です。
- ・柳川 尚子（やながわ なおこ）様です。

新規の宇佐見委員以外の皆様には引き続き委員をお引き受けいただき感謝申し上げます。なお、委嘱状につきましては、机上に配付させていただいております。委員の皆様、今後2年間どうぞよろしくお願い致します。

続きまして、審議会の内容が児童生徒、高体連、小中体連に関わることが多いことから、今回オブザーバーとして高体連会長、小中体連会長にも御出席いただいておりますので、御紹介します。

- ・千葉県高等学校体育連盟会長、千葉県立八千代高等学校長、越川 均（こしかわ ひとし）様です。
- ・千葉県小中学校体育連盟会長、千葉市立末広中学校長、石井 茂（いしい しげる）様です。

どうぞよろしくお願い致します。

それではただ今より、平成28年度第1回千葉県スポーツ推進審議会を開会いたします。

本審議会への委員の皆様のお出席は7名、3名の委員の方から所用のため欠席する旨の申し出がありました。本審議会は、千葉県スポーツ推進審議会条例第5条第2項に規定されております「半数以上の出席」という条件を満たしておりますので、成立いたします。

はじめに、千葉県教育庁教育次長より御挨拶を申し上げます。

教育次長

本日は、御多用のところ、委員の皆様には、平成28年度第1回スポーツ推進審議会に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

また、日頃より、本県スポーツの推進に御支援・御協力をいただくとともに、今年度の委員改選に当たり、委員をお引き受けくださったことも併せ、厚くお礼申し上げます。

さて、ひと月後の8月5日からオリンピック、そして9月7日からパラリンピックがリオ・デ・ジャネイロで開催されます。本県ゆかりの体操の加藤凌平（かとう りょうへい）選手、柔道のペイカー菜秋（ましゅう）選手、車いすテニスの国枝慎吾（くにえだ しんご）選手をはじめ、多くの選手が出場しますので、全ての選手の健闘を願っております。

そしてこの大会の後には、いよいよ「東京2020大会」です。幕張メッセは、オリンピック3競技、パラリンピック4競技の競技会場として承認されました。またアメリカ陸上競技チームが、事前合宿を本県で行います。県内で開催される「東京2020大会」を成功させることは、本県の国際的な魅力高めるとともに、スポーツの振興、国際交流の推進などの絶好の機会となります。

今後、開催県としてオール千葉の体制で、準備を進めていくこととなります。委員の皆様方におかれましても、それぞれのお立場での御支援・御協力をお願い申し上げます。

県といたしましては、トップレベルのスポーツはもとより、県民の皆さんが、健康で活力ある生活を送るためのスポーツ環境を整備することは、大変重要と認識しております。

本年は、第11次「千葉県体育・スポーツ推進計画」の実行5年目として、事業の点検・評価の結果や、委員の皆様からいただいた御意見を踏まえ、関係部局と連携を図り、各種事業を横断的、総合的に推進していく所存でございます。

また、県民のスポーツに関するニーズの多様化、「東京2020大会」開催後の本県の体育・スポーツの姿も見据え、次期、推進計画の策定の準備も進めてまいります。

本日の会議では、今年度の「重点施策推進計画」や「第12次推進計画」について御審議をいただく予定となっております。委員の皆様には、専門的な視点からの御指導、御助言をお願い申し上げ、簡単ではございますが挨拶とさせていただきます。

事務局

それでは、議事に入る前に、資料の確認をさせていただきます。平成28年度第1回千葉県スポーツ推進審議会の次第及び名簿、座席表が1部ございます。

「資料1」は、本審議会を開催するに当たって、根拠となる、スポーツ基本法及び千葉県スポーツ推進審議会条例でございます。

「資料2」は、報告事項の冊子です。別添資料として、第11次千葉県体育・スポーツ推進計画の平成27年度点検・評価報告（最終版）の冊子がございます。

「資料3」は、審議事項の冊子です。別添資料として、第11次千葉県体育・スポーツ推進計画平成28年度重点施策推進計画（工程表）の冊子がございます。

「資料4」は、第12次千葉県体育・スポーツ推進計画の策定にかかる資料です。

過不足がございましたら、事務局にお申し出いただければと思います。また、委員の皆様には日韓スポーツ交流に関するリーフレットをお配りしています。

【会長・副会長選出】

それではまず、委員の改選に伴いまして、本審議会の会長・副会長の選出を行いたいと思います。

選出につきましては、これまで会長を務めていただきました荒川委員に仮議長として御依頼したいと思います。荒川委員よろしく申し上げます。

会長

はい。それでは御指名でございますので、仮議長をさせていただきます。審議会条例第4条第2項に会長及び副会長は委員が互選すると規定されております。委員の方で立候補される方、推薦される方はいらっしゃいますか。

いらっしゃらないようなので事務局案を提示させていただいてよろしいでしょうか。

それでは事務局案をお願いします。

事務局

これまで会長・副会長をされております荒川委員を会長に、浪越委員を副会長に推薦したいのですが、いかがでしょうか。

（委員拍手）

会長

それでは、ただいま御推薦をいただきましたので、会長を荒川、副会長を浪越委員ということでよろしいでしょうか。

（異議なし）

会長

それではそういうことで。

事務局

これから2年間、荒川会長、浪越副会長ということでよろしく申し上げます。一言ずつ御挨拶をいただけたらと存じます。

(会長、副会長挨拶)

事務局 それでは、会長に議事を進めていただきます。よろしく申し上げます。

【報告事項】

議長 それでは、次第に沿って議事を進行させていただきます。まずは報告事項です。事務局、お願いします。

事務局 報告事項につきまして、一括して説明をさせていただきます。

「資料2-1-(1)・(2)」を御覧ください。

はじめに国民体育大会及び全国障害者スポーツ大会についてです。本年は、岩手県で開催されます。会場や大会日程など掲載してありますので御参照ください。また、国体及び全国障害者大会関係行事の予定もまとめてあります。

続きまして「東京オリンピック・パラリンピックアスリート強化・支援事業」について、説明します。「資料2-2」を御覧ください。

平成26年度から東京オリンピックに向けジュニア選手の強化に取り組んでおりますが、27年度からパラリンピックに向けた障害者アスリートの強化も加え、国内外の遠征や強化合宿、競技用具の整備等に助成しています。

また、今年度の指定選手の状況は、7月13日(水)に行います特別強化指定選手に対しての、強化指定証授与式で発表いたします。

千葉県から一人でも多く、東京オリンピック・パラリンピックへ出場する選手を輩出できるよう、この事業を推進してまいります。

また、現在のところ、リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックに出場が内定している千葉県出身・ゆかりの選手は6月30日現在、オリンピック24名、パラリンピック15名です。最終的にオリンピック30名、パラリンピック17名を見込んでいます。

次は「第1次千葉県体育・スポーツ推進計画」平成27年度の点検・評価報告についてです。

3月11日に開催しました、第2回審議会において、各柱の指標及びそこに紐付く施策についての達成状況について、御報告させていただきました。しかし、一部事業については集計が間に合わないところもございましたので、別添資料として冊子に最終版としてまとめさせていただくとともに、総括として(資料2-3)にまとめましたので、御覧ください。

続いて、昨年度の第2回目の審議会で、委員の方からいただいた御意見に関して、説明をさせていただきます。

柱1の生涯スポーツの推進について、親子体験イベント等については、プロスポーツチームも協力できるところある。試合後の球場で体験イベントを行うなど、見るだけでなく直接スポーツにふれる機会を増やしていけたらと考えている。また、若年から中年のスポーツ実施率が低い。仕方ないという面もあるが、啓発活動を充実させてほしいという御意見をいただきました。

「ちば夢チャレンジ☆パスポート・プロジェクト」において、千葉ロッテマリーンズ様、千葉ジェッツ様から御協力をいただき実施しております。今年度も現在、マリーンズ様の事業を進めておりますが、昨年の同時期と比較して、約1.5倍の申込みをいただいています。事業が少しずつ認知され、定着していること、普段入ることができない場所を観ることができること、親子で参加できることなどが評価されているのかと思います。子育て世代、働き盛り世代のスポーツ実施率の向上に、啓発活動も含め、様々な場面でスポーツができる場、機会、情報を提供していきます。

柱2の子どもの体力向上と体育の充実について、握力と投力が低下傾向にある。指導のプロがそろって

いますので、協力できるところはやっていきたいという御意見をいただきました。

幸いにして、新体力テスト8種目平均点は目標の50点を達成しつつあります。しかし、御指摘のとおり、握力と投力は低下傾向にあります。投げるといったことは、単に筋力のみならず、投げ方もあり、これが身につけていなければなりません。幼時期からの運動経験も含めて、これも保護者への啓発や、小学校でそれを教える指導者の資質もあると思われます。次の意見にもあるのですが、プロスポーツのコーチを教員の集まる授業研究会で実技指導として活用したらどうだろうという意見をいただきました。非常にありがたい御意見ですし、昨年10の小学校で実施しましたトップアスリートやそれに関わるトレーナーを学校に派遣する「ちば夢チャレンジかなえ隊」をより発展させていくことも必要であります。

柱5のスポーツを活用した地域の活力づくりについて、「ちば夢チャレンジ☆パスポート・プロジェクト」は、球団だけではできない事業である。プロスポーツに触れ、親しむことのできる機会になったのではないかと。千葉県ほかのプロスポーツであるジェフやレイソルなどにも広がってほしいという御意見をいただきました。

野球やバスケットをサッカーに広げていくことは、県民のニーズに応えることと思えます。クラブ側と話し合いの場を持って、検討していきます。

オリンピック・パラリンピックについて、開催自治体として、より一層、オリンピック・パラリンピック教育の重要性を感じていただきながら、より多くの方々に伝えてもらいたい。トップ選手だけがレベルが上がっていくことがすべてだとは考えていない。医療とスポーツの関係も含めて、将来的にはオリンピック・パラリンピックアスリート強化選手の活躍が、障害者にとっても身近に感じられるような施策も増やしてほしいという御意見をいただきました。

この後、第12次体育スポーツ推進計画の審議をいただきますが、その中で一過性のものとせず、開催を契機として何を残せるかが重要であると考えています。そこでまた、御意見をいただきたいと思えます。

アンケートについて、児童・生徒用の調査で「なぜ、できないのか」「なぜ、やれないのか」の原因を知るためにアンケートを実施するとすれば、「嫌いだから」ではなく、「なぜ嫌いなのか」という理由こそ知りたい。以前、私の職場で調査した「運動障害の研究」の際には「子どものときに、学校体育で恥をかいたからやりたくなくなった」という答えが多くあった。なぜ、やらなくなったのかを掘り下げていかないと、子どもたちは運動やスポーツを続けていってくれない。理由が分析できるアンケートがいいという御意見をいただきました。

アンケートの項目については検討を考えています。御意見にあるとおり、嫌いかどうかを問うだけでなく、なんでそうってしまったかという原因を知らなければ、その解決に繋がらないことから、その因果関係を分析してまいります。また、その回答の選択においても、国との比較ができるように、これまで報告されている結果を研究してまいります。今回は第11次体育・スポーツ推進計画の最終年であり、これまでの経年変化をみるために、アンケートは継続してまいります。第12次に向けては、アンケートの項目、データの収集方法についても検討してまいります。

最後に、本年度の体育課のいくつかの事業について報告をします。

資料2-4-(1)を御覧ください。

今回3回目となる「ちばアクアラインマラソン2016」を、10月23日(日)に開催します。定員17,000人に対し、30,000人を超える申込みがありました。招待ランナーにつきましては、記載のとおりです。過去2回同様天候に恵まれ、無事スタートが切れるよう、準備を進めております。

資料2-4-(2)を御覧ください。

オリンピック教室についてです。2020年東京に向けた機運の醸成やオリンピック教育の推進を図るため、県内の公立中学校で行っている事業です。昨年度は船橋市立海神中学校で実施しました。今年度は記載の6校で実施します。

資料2-4-(3)を御覧ください。

未来(あした)への道1000Km縦断リレー2016の開催概要です。被災地の復興及び2020年オリンピック・パラリンピックの聖火リレーに向けて、平成25年から実施し、今年で4回目となります。7月24日(日)に青森県庁を出発し、本県内では8月6日(土)に旭市役所をスタートし、その日に県庁にゴールします。翌7日(日)に県庁をスタートし、東京を目指します。

また、委員の皆様には日韓スポーツ交流のリーフレットを配布しております。これは、「2002年のワールドカップサッカー」の共催をきっかけとして、両国の親善と友好、スポーツ振興と競技力の向上を目的として、日本体育協会が1997年から毎年実施しています。今年度、夏季休業中の8月16日(火)から8月22日(月)までの7日間、本県からはサッカー、バレーボールに98名の小中学生を派遣するとともに、同時期にサッカー、バレーボール、バスケットボール、卓球、バドミントンに韓国から選手218名を受け入れます。

以上で報告を終わらせていただきます。

議長 ただいま報告事項を一括してお願いしました。委員の皆さんから何かございますか。
報告事項については、よろしいでしょうか。
それでは、審議事項について事務局から説明をお願いします。

【審議事項1】

事務局 それでは、審議事項について説明をさせていただきます。

まずは、別添冊子「第11次千葉県体育・スポーツ推進計画」平成28年度重点施策推進計画(工程表)を御覧ください。

平成28年度の「千葉県体育・スポーツ推進計画」の関連事業につきまして、本計画に掲げた目標の達成に向けて、平成24年度からの5年間に実施する重点的な取組について、主な事業の工程を示してあります。実効性を高めながら、計画的な事業推進を進めてまいります。

ここで示しました、各事業の進捗状況については、県民への体育・スポーツに関するアンケート調査の結果や、各柱の指標の達成状況を踏まえ、点検評価を行い、毎年度、取組内容等の見直しを行います。

続きまして、「資料3-2」、千葉県体育・スポーツ推進事業予算概要を御覧ください。

先ほど御覧いただいた冊子に記載された施策の中から、各柱の重点施策事業についてパッケージにまとめ、「千葉県体育・スポーツ推進事業」として予算を計上しております。また、横断的な事業推進を図るため、ワーキンググループ部会を開催し、複数の部や課、室、班のメンバーが集まり、事業内容について情報交換を行ったり、共通理解を図ったりして、実効性を高めています。

柱1の「スポーツ立県ちば推進年間関連事業」では、毎年10月をスポーツ立県ちば推進年間として位置づけ、ふだん運動に親しむ機会の少ない方々へ「情報・場所・機会」を提供し、運動に親しむきっかけづくりを支援してまいります。その予算としまして60万8千円を計上しております。

柱2の「幼児期における体力づくり事業」では、園長、幼稚園教諭など指導者及び保護者に、幼児期の運動遊びの重要性について理解していただくため、研修会を開催いたします。その予算として12万円を計上しております。

柱4の「総合型地域スポーツクラブ自立支援事業」については、クラブ交流大会「スポネットちば」を開催しております。千葉県総合スポーツセンターを会場に、県内全域から総合型地域スポーツクラブが一同に会し、交流を深める大会でございます。その予算として47万2千円を計上しております。

柱5の「プロスポーツ活用連携事業」は、平成26年度から、「ちば夢チャレンジかなえ隊派遣事業」として、県内小中学校を対象にトップ・プロスポーツ団体の選手・スタッフを派遣し、体育・スポーツ活

動での交流を通して、広く子どもたちに、スポーツの楽しさを体験させています。その予算として50万円を計上しております。

最後に、柱5の2つ目として「県民体育大会サブイベント開催事業」があります。より多くの県民が「する・みる・ささえる」、それぞれの関わりで、県民体育大会の認知度を高め、各競技種目の競技人口の底上げを図ることを目的に、県民体育大会におけるサブイベントの開催を予定しております。その予算として120万円を計上しております。

以上5つのプロジェクトにつきまして、総額290万円を計上しています。これは、昨年度と同額となっております。

続いて、「資料3-3」、平成28年度「県民の運動・スポーツに関するアンケート調査」実施要項を御覧ください。

「推進計画の点検・評価を行うための指標」と密接に関連するように、アンケート項目を見直しながら実施してきました。本年度は5回目ということ、同様の項目を実施することで、集計結果の比較をしやすい利点もあり、アンケート項目については、特に変更点はございません。

ただし、第11次の総括及び第12次への課題を盛り込むために、従来よりも2か月早め、9月の実施を予定しています。

まずは、審議事項3つについて、説明させていただきました。委員の皆様、御審議、よろしくお願いいたします。

議長 事務局から、まず1つは28年度の千葉県体育・スポーツ推進計画の重点施策推進計画(工程表)について、2つ目は、「県民の運動・スポーツに関するアンケート調査」の実施について説明がありました。委員の皆さんから、意見をお願いします。

委員 スポーツエキスパート事業について、詳しく教えてほしい。

事務局 高等学校が専門的な指導ができなくて困っているということで、平成元年から始めた事業です。現在は、1人につき年間24回行っている。もともとは、小中学校も対象だったが、現在は高校のみ行っている。今年度は、37校に40名の外部指導者を派遣しました。多い時は、約50名を派遣していました。

議長 運動部活動を担当する教員の過重負担が言われているが、高校だけでなく、中学のことも含め、県教委はどう考えているのか。方針などを出す考えはあるのか。

事務局 議会や文教常任委員会でも議論になっている。高校では、部活動支援員の制度化の話も出ている。千葉県としても独自の取組ができないかという声が上がっており、関係課と相談しながら進めていきたいと考えています。

議長 外部指導者は、40名で充足されているということですか。

事務局 現場からは、もっと多く派遣してほしいという声を聞くことも多いが、実際に募集をかけると40名程度になるのが、ここ2、3年の傾向です。

委員 声があるのに少ないということは、申請しづらいなどの理由があるのではないか。

事務局 高校では、専門的な指導ができる教員が比較的多いので、この程度であると考えています。

- オブザーバー 千葉市でも専門的な指導者がいなくて困っている学校がある。そのため、外部指導者を積極的に呼ぶようにしている。地域によっては、生徒不足や生徒が多すぎて困っている学校もある。
- 事務局 中学校でも高校でも、柔道や剣道で活用している例が多くある。部活だけでなく、授業でも活用しています。
- オブザーバー 高校は、専門家が多いので、授業は、教員で成り立っています。外部指導者の数については、高校が自力で探さなければならない、コントロールが難しい方がいるなどの問題があり、なかなか増えないのではないかと。また、部独自で指導者を探して対応しているという例もあります。
- 委員 千葉県では、スポーツ指導者を多く養成していると思いますが、その方をどのように活用しているのか。保健師と連携し、健康のための運動指導などを担ってもらってはどうか。
- 事務局 昨年度までで618名の生涯スポーツ指導員を養成しました。スポーツ推進委員は2150名、スポーツリーダーバンクも305名がいます。77の総合型地域スポーツクラブもあります。市町村もその情報を共有しているので、市町村のスポーツ主管課に問い合わせれば、スポーツ指導などを要請することができます。
- 事務局 特定検診は、市町村や保険組合が行っています。県は、特定検診の知識をアップデートする場の一つと考えています。詳しい方法については、市町村や保険組合が検討していると考えています。
- 事務局 連携については、今すぐ答えられないが、担当で検討をしたいと思います。
- 議長 さて、今年度は今後5年間を見据えた「第12次千葉県体育・スポーツ推進計画」を策定しなければなりません。それにつきまして、審議事項として事務局から提案をお願いします。

【審議事項2】

- 事務局 「第12次千葉県体育・スポーツ推進計画」策定につきまして資料4-1を御覧ください。
- 策定の方向性としましては、「新輝け！ちば元気プラン 千葉県総合計画」、千葉県教育振興基本計画「新みんなで取り組む教育立県ちばプラン」の「するスポーツ」「みるスポーツ」「ささえる」スポーツの推進を目指しながら、第11次の柱及び課題を踏襲するものを策定していきます。
- また、平成24年から10年間を見据えた国の「スポーツ基本計画」も5年が経過し、今年度は後半5年間の策定をするということから、県としましてスポーツ庁の情報を得ながら、ベクトルを合わせた計画を策定していきます。
- 策定の骨子としましては、平成27年度までの審議会及び策定検討ワーキングにおきまして、第11次の5本の柱にオリンピック・パラリンピックを追加し、6本の柱にすることになりました。
- 今年度、いよいよ策定の年となり、4月に第1回の策定検討ワーキングを行うとともに、新たに決定した審議会委員の皆様にはヒアリングを行い、現在のところ右側のような骨子を作成しました。
- 資料4-2を御覧ください。
- 計画の中身について、全体的なイメージですが、「スポーツの持つ価値及び可能性」を考え、これまでのように柱が1本ずつ独立しているのではなく、他の柱と大いに関わっている部分が多いことから、柱ではなくリンクという言葉に変え、「繋がり・関わり」というものを意識したものを作成しました。1～6までのリンクが繋がって、「するスポーツ」「みるスポーツ」「ささえるスポーツ」を推進し、上段にある「スポーツ立県ちば」の一層の推進を目指すというものです。
- 第11次を踏まえ、第12次の特徴としましては、ひとつは、「超高齢社会に備えた体育・スポーツの推

進」です。本県の高齢化率（総人口に占める65歳以上の人口の占める割合）は平成27年は24.7%、平成32年は27.4%になる見込みです（千葉県政策環境基礎調査による推計値・第11次P10参照）。7%を超えると高齢化社会、14%は高齢社会、21%は超高齢社会と言われています（WHOや国連定義）が、既にこのような本県の現状に、高齢になってから体育・スポーツをするのではなく、健康の保持・増進、体力の維持・向上のためには、子どものうちから体育・スポーツをする習慣、食習慣を正しく意識しなくてはならないことから「備える」ということをキーワードにしました。

次は、「障害者の体育・スポーツの推進」です。これだけをリンクのひとつにしても良いのですが、あえて特出しはせず、全てのリンクにその内容を含め、健常者も障害者も同様に生活をする中で、体育・スポーツの目標を設定し、その目標の達成のために具体的な取組をするということを考えました。

そして、「オリンピック・パラリンピックのアクションとレガシー」です。東京に多くの千葉県ゆかりの選手を輩出するとともに、今後、右肩上がりになると思われるオリンピック・パラリンピックに向けた機運をどのように、その後に結び付けるかが非常に重要であると考えます。圧倒的に多い「みる」「ささえる」側が、選手にあこがれを抱き、スポーツに対する興味関心を持つようになることで、より体育・スポーツが発展していくものと考えます。

議長 　　ただいま、事務局から第12次推進計画の方向性、骨子、計画の中身の概要について説明がありました。ここまでで、委員の皆様から御意見をいただきたいと思えます。

委員 　　子どもの体力が第一にあることはいいと考えます。幼いうちからの食育を進めてほしい。また、褒めてほしいからこそ、大会があると考えます。表彰の在り方についても考えてほしいと思えます。

委員 　　全てのリンクの中に、障害者が含まれているという考えは、インクルーシブにつながると思えます。

委員 　　プロスポーツチームの立場から。柱でなくリンクは、それぞれが運動しているという実態に即していると思えます。2020のオリンピック・パラリンピックは、12次のターニングポイント。そこへの準備はもちろん、終わった後のこともよく考えてほしいと思えます。例えば、ボランティアは、オリンピック後どう活動していくのか。

委員 　　健康でなければスポーツの継続はできません。どの項目でも、食習慣は大事。ぜひ、盛り込んでほしい。

議長 　　それでは実際の構成図について事務局から説明をお願いします。

事務局 　　資料4-4を御覧ください。

構成図には、それぞれのリンクに施策とともに第11次での現状と課題を記載しました。また、委員の皆様にはヒアリングを行い、第12次の目標とそれを達成するための具体的な取り組みとして落とし込みました。

リンク1「子どもの体力向上と学校体育活動の充実」では、リンク2と共に人の一生をイメージして1番目に持ってきました。この時期に体育・スポーツを好きにさせ、運動習慣を身につけさせ、体力の向上や様々な運動スキルを獲得させると共に、栄養面や食事についての理解を図らなくてはならないと考えています。健常者も障害者も関係なく他者を思いやり、スポーツマンシップやスポーツをする意義を理解するための取組も重要だと考えています。備えるとは、この時期からスポーツの価値の基盤づくりをイメージして使った表現です。

リンク2「健康体力づくりを意識した運動習慣・スポーツ活動の推進」では、若年中年層の運動スポーツの推進において、成人のスポーツ実施率60%は、27年度現在45.8%と達成には及びませんでした。このことは第11次に引き続き、継続して第12次の課題として取り組まなければならないと考えています。

学校を卒業して高齢者になるまでの過程で、スポーツが心身ともに健康で文化的な生活を送ることに不可欠なものになっていきます。運動する場所、機会、情報をどのように提供しなければならないかを検討する

ことが重要です。そういったことを具体的な取組に盛り込みました。

リンク3「スポーツ環境の整備」では、リンク1、2を推進していく上で教員や指導者の養成は欠かせません。また、最近スポーツ活動を全体的に見渡し、マネジメントしていく役割が注目されています。障害者のスポーツを推進していくためには、障害の程度や状況に応じた指導ができ、それをサポートできる人材の養成も必要になってきます。ソフト面である人づくりやシステムづくりを推進していくこととあわせて、ハード面として施設の再整備と有効活用は重要であり、障害者にとってもバリアフリー化の推進等がこの中に含まれてきます。

リンク4では、これまでどおり競技力推進本部で行われてきた事業を継続していきます。加えて、トップアスリートが競技を終えた後もその能力を発揮できる場面を設定できればと考えます。障害者スポーツ組織との連携も視野に入れて競技力の向上を図っていきます。また、競技力向上推進総合計画も同じ29年から33年の計画年度をイメージして策定作業をしていますので、そこと共同作業というか競技力向推進本部の計画がここに当てはまってくるというイメージも併せて検討していただきたいと思っています。

リンク5「東京オリンピック・パラリンピックを契機としたスポーツの推進」では、千葉県から1人でも多くの選手を輩出することを目標にすると共に、機運の醸成に伴って圧倒的に多い見る側・支える側がスポーツとどうやって関わっていくか、またその後どのように財産として引き継いでいくかが重要なことだと思えます。日本の体育・スポーツが世界に誇れる文化に成長していくことも東京オリンピック・パラリンピックを契機に考えていかななくてはならないことだと考えています。

リンク6「地域におけるスポーツとの連携協同の推進」では、現在プロスポーツと連携して2つの事業を行っています。千葉の魅力発信については「ちばアクアラインマラソン」、地域と連携したスポーツの推進については県民大会の開催や県民大会のサブイベント等で対応している状況です。2020年の東京大会開催に当たり、より地域の魅力発信につなげると共にスポーツのボランティア養成や活用、またスポーツツーリズムとの連携も盛り込んでいきたい内容です。

全体的には、赤く色がついた部分は第12次で新規に取り組む事業です。先ほど御説明しました第12次の3つの特徴がこの構成図に反映されているかどうか、それぞれ6本のリンクに他のリンクとの関係性も踏まえ、御審議ください。

議長 委員の皆さんから、構成図につきまして、それぞれの施策の現状と課題の確認と共に、目標や取組について御意見を申し上げます。まずは、リンク1について御意見をうかがいます。

議長 柱ではなく、リンクとした理由は？

事務局 スポーツの持つ価値、可能性を考えていったとき、それぞれが関連し、影響し合っていると考えました。そこから、リンクとしました。

オブザーバー 部活動についてですが、高校は45%を目標にしています。そのような中、加入者がずっと増えています。でも、なぜ45%行かないのか。高体連や高野連に加盟していない部がある。ダンスやチア、ゴルフ、合気道など。これらの正確な数を合算すれば、おそらく45%を超えてくるだろう。単純に、加入率をあげることが本当にいいのか、検証することが必要では。目標では、体罰、いじめ、会計処理などマイナスのことばかり。書き方の問題と思うが、目標としては疑問がある。休日の休養日設定を推進するというのも考えていただきたい。

事務局 加入率は、11次で45%の達成を掲げた。男女間の差など課題もある。計画に反映できればと思います。

委員 部活動で何を指すのかをもう一度、はっきりさせる必要があるのではないかと思います。おそらく、今までの部活動の指導者は、競技力優先。しかし運動に親しみのない子を入れ込み楽しませる考えもあります。千葉県として何を与えてやるものなのか、今一度考える必要があると思います。競技力を指す子はいつそ

のことプロの方で練習させ、運動に親しみのない子こそ、学校帰りに集めてスポーツっていいなという思いを感じさせてあげるとか、発想を変えてみる必要があるのではないかと考えています。

事務局 「運動部活動プラスワンプロジェクト」として、地域との交流貢献、総合型地域スポーツクラブとの連携、高等学校部活動・民間・大学・地域との連携等、新しい形の部活動の役割も盛り込んでいきたいと考えています。

議長 リンク2について何かございますか。

委員 どこかに「楽しい」という言葉を挙げてほしいと思います。スポーツの価値ばかりが全面に出てくるが、そもそもスポーツは楽しいからやるのが第一義ではないかと思っています。

また、健康スポーツ課ができ、健康体育づくりが出てきたのはありがたいが、高齢者でもお金やパワーがある人には、シニアボランティアとして支えられる側ではなく支える側として、オリンピックなどでの活用を考えてほしいと思います。その方たちは、スポーツをやらなくてもスポーツに触れ、楽しさや生き甲斐を感じるようになるだろうから、そういったスポーツの推進も考えてほしいと思います。

事務局 「楽しい」という観点は重要な視点で、文化活動の最大の意義は「楽しい」だと思います。重要な部分なので、検討させていただきます。

事務局 これからは、高齢化社会になってきます。元気な高齢者がそうでない方を支える政策があります。スポーツもその中の1つの方法として入れていければよいと思っています。

委員 ロコモティブ シンドロームの周知が中年層に入っていますが、ロコモティブ シンドロームは、運動器がうまく動かなくなって転倒したりするものなので、その予防は、65歳以上の高齢者向きなので高齢者のスポーツ推進に移動してもいい項目だと思います。

それと、国が「プラス10」を推奨しています。10分程度汗ばむ程度の運動は、動脈硬化の予防になるし、良い効果があります。動く時間がないという中高年も体を動かすと「楽しい」ということにつながります。(1)には、「プラス10の周知」を入れ、「ロコモティブ シンドロームの周知」は高齢者のスポーツ推進にずらしてもいいように思います。

事務局 検討します。

議長 スポーツ環境の整備で何かございますか。

委員 仕事が増えると人が必要になってきます。千葉県障害者スポーツ協会との連携となっていますが、連携だけでなく協会の方にも職員が増える必要があると感じていますので検討してほしいと思います。

議長 障害者スポーツ指導者協会との連携の下に、障害者競技スポーツの強化支援とありますが、実際にこの計画を推進していく場合に、体育課と担当課との連携はどのようになるのですか。また、競技力向上推進本部の中に障害者スポーツは含まれるのでしょうか。

委員 現在、東京オリンピック・パラリンピックのアスリート強化支援事業で、パラリンピックの選手の強化だけを競技力向上推進本部で行っています。それ以外の各障害者団体の育成、普及に関わる選手の掘り起こしなどは、障害者スポーツ協会に担当していただいています。ここに載せているのは、障害者の競技スポーツの強化については、東京オリンピック・パラリンピックの後でもこちらで強化をしていくというような格好で残っていくと考えています。

委員 それ以外の部分の仕事は、障害福祉課ですか。

委員 全国障害者スポーツ大会の派遣事業は、全部障害福祉課にしている事業です。基本線は、今の形を継承していくというイメージです。

委員 今のような形で支障はないですか。

委員 今のところは、その形しかやりようがないところです。障害者スポーツ組織は、千葉県体育協会の中に各競技団体があるような形ですが、組織は組織で育成していくということで、今まで専門でやってきたところでやってもらった方がよいかと考えます。

委員 少し危惧するのは、トップアスリートは充実した支援が受けられます。しかし、入口となる体験、スポーツを始める障害者が増えてきましたが、その途中の部分を救っていくのが日本レベルで難しいと感じます。いろいろなところに障害者スポーツという言葉が出てきましたが、誰がやるのが課題です。仕事が増えたときに持ちきれない、こなしきれないということになると絵に描いた餅で終わってしまうので、考えていただきたいと思います。

事務局 障害者スポーツの組織の充実が課題となっていると思いますが、現在オリパラ強化支援事業の中で基盤整備ということで生涯者スポーツ協会に委託しているところです。人員の確保は必要だと思いますが、お金のかかる話になるので検討させていただきたいと思います。

事務局 これは大きな問題なので、体育課だけ、障害福祉課だけではなくて全体で大きなフレームで考えていく必要があると思います。

議長 次に、4-3どうぞ。

委員 施設の再整備に関してですが、総合スポーツセンターの球場は、耐震上改修の基本設計を今年度に行われます。そのため、高野連では多く客が入る試合はQVCマリンでやるしかありません。2018年には、世界ソフトボール選手権の決勝トーナメントがQVCマリンで8月中旬に行われる予定です。プロ野球もあって、7月の後半に高校野球千葉県予選もあります。この年は記念大会で2校出場の予定です。この年のQVCマリンは、かなりぎりぎりになってしまっている状況にあります。大規模な大会をオリンピック以外も含めて千葉県に誘致をして考えると考えたときは、そういった大会を受け入れる施設がないと、なかなか日程上受け入れられない状況になります。そうなってくると県民の方々が国際大会を見る機会がなくなってしまうので、こういった部分はしっかり計画を立ててほしいと思います。

県立幕張海浜公園で、現在JFAがサッカー日本代表の練習場になるような施設整備を検討しています。公園緑地課が窓口で進められていますが、JFAでは、サッカーだけの施設ではなく、様々なスポーツアスリートの方々がトレーニングに取り組めるような場所をつくりたいと検討されているようです。正式な計画が出てからになると思いますが、県の設備だけではなく有効活用していただける取組をしていただきたいと思います。

事務局 県としても、条件的なものをサッカー協会と協議していると聞いています。その中で活用を考えていく必要があると思います。

議長 続いて競技力向上は、どうでしょうか。リンク5とあわせて御意見があればお願いします。

委員 オリンピックのスポーツボランティアは、具体的にどのような形で養成をするとか、内容はどのようなものなのか等、話は出てきているのでしょうか。

事務局 スポーツボランティア・ボランティア全般に関しては、東京都組織委員会が2年前から行政等と関わって進めています。具体的なものは、正式に千葉県に降りてきていませんが、ロンドン等の状況を見るとボランティアは大活躍し成功を収めています。千葉県では、県民生活文化課が窓口で進められているが、そこ連携をして、東京都組織委員会の情報を集め検討している最中です。

委員 千葉県でいくつか種目が行われますが、成田にはいろいろな方が入ってきます。シニアの方を使ったゲームの会場以外のボランティアを考えたらどうでしょうか。ロンドンでも会場でない場所での活動が見られました。

事務局 競技場と都市ボランティアの2つの方向で動こうと思っています。昨年度、北京世界陸上に向けたアメリカチームの事前キャンプを成田市、佐倉市、印西市、順天堂大学で行いました。そこで中心になった方が佐倉市の現役を引退したパイロット等の方々で大活躍をしました。県としても、そういった方々を有効的に活用できる場を提供できるよう関係課と調整しているところです。

議長 それでは、最後に地域におけるスポーツとの連携協同の推進の部分はいかがでしょうか。

委員 パスポート・プロジェクトとかなえ隊の派遣事業は、千葉県にあるプロスポーツチームとしては、やはり継続してやって行かなくてはいけない大切な事業だと思っています。

ちば夢チャレンジの申込みが昨年度より1.5倍という報告が冒頭にありましたが、非常に引き合いが高まっています。3年目となり、保護者はもとより教員の方の定着が進んでいると思っています。3年前は、認知度が高くなく保護者までいき渡っていなかったが、3年やるうちに認知度が高まり学校申込みが1.5倍に、球団のネット申込みもハイペースで進んでいます。受け入れ予定数を大きく上回るものと想定しています。こちらに関しては、球団で何とかやりくりして、手を挙げてくださった家族の方は全員を受け入れていきたいと思えます。まさに、「継続は力なり」と思っていますので、この先の計画の中にも引き続き広げていただけるよう各方面へ調整していただきたいと思えます。かなえ隊の派遣事業は、リンク1ともつながってくるところですし、ぜひ、より多くの学校と連携しながら派遣できるような計画を組んでいただければと思います。

委員 リンク1は、「幼児期における運動習慣」で切れていて、施策がしっくりこないの、「運動習慣の確立」等、一言加えていただきたい思いがあります。

「子どもの体力の向上」の6つのリンクの前に3つの基本的な方針があり、それを土台として6つのリンクになっているはずですが、ここに特別支援学校が出てきません。東京オリパラのところでは、特別支援学校という表記はありますが、この中で障害を持った子どもが出てこないのは気になります。「障害を持った方」という新たに3つの指針の一つにした中では、薄いように思います。

現実に特別支援学校の授業では、どうしても自立が目的になっているので訓練の域を出ず、子どもたちは、楽しんでいるのかという疑問もありますが、障害を持った子どもたちが体力の向上と運動・スポーツを楽しんでいると感じる、そういうリンクの1つになればと思います。

リンク2については、何はともあれ楽しむものというところを大事にして行かなくてはならないと思いました。

それから今、学習指導要領の改訂作業が進んでいて、体育の中でも「する」「見る」「支える」がもっと表に出てくると思います。それに加えて「知る」の視点が出てくる話があります。この先の教育界の動向も視野に入れながら作っていただけるとよいと思います。

3番目の環境の整備、バリアフリー化の推進は、どちらかというと見るというアクセスのところでのイメー

ジが強いのですが、そうではなく車いすバスケットで使う等、施設利用のバリアフリー化を指針に掲げる点を千葉県は進めるようにしてほしいという思いがあります。

議 長 各委員へのヒアリングや本日の会議でいろいろな意見がありました。この後は次の審議会で、本日の意見を含めた内容の案が示されるわけですが、その辺のスケジュールについてお願いします。

事務局 スケジュールについては、資料４－５を御覧ください。
本日審議会において御審議をいただいたことをもとに、７月２９日の策定検討ワーキングで構成図を固めていきます。最終的には３月１５日の教育委員会会議において策定するために、通常年２回の審議会を次回は１１月２４日、そして３月１０日と３回実施します。次回の１１月２４日の審議会で計画案を提出するため、策定検討ワーキングにより各課の考えを集約するとともに、教育委員会会議勉強会、パブリックコメント等を行っていきます。また、次回までにヒアリングや双方向の情報交換等をして固めていきます。併せて審議会の性格上、本日説明した方向性、内容、骨子構成図の基本的な考え方等についてここで確認をしていただき、次に進んで行きたいと思えます。

議 長 全体をとおして皆さんから御意見、御質問はございますか。
それでは、本日の方向で進めることについてはよろしいですか。
(承認)
以上で、議長の任を解かせていただきます。進行を事務局にお返しします。

事務局 長時間にわたり、進行していただき、荒川会長ありがとうございました。また、委員の皆様方、貴重な御意見をいただきましてありがとうございました。
なお、先ほど課長から申し上げたとおり、次回は１１月２４日（木）１４時を予定しております。場所については、スポーツ科学センターで行います。
１０月中には、改めて文書にて御案内をさせていただきます。現時点で御都合のつかない方がおりましたら、お知らせください。
それでは、最後に神子教育次長から皆様にお礼の言葉を申し上げます。

教育次長 委員の皆様には、慎重な御審議、貴重な御意見をたくさんいただきまして本当にありがとうございました。皆様方からいただいた御意見は、今年度の体育・スポーツ行政に反映させてまいりたいと考えております。第１２次の千葉県体育スポーツ推進計画には、２０１０年の東京オリンピック・パラリンピックを含むということで、どのように千葉県における体育・スポーツのあり方に生かしていくか重要な計画になることと考えています。
次回、１１月２４日の審議会までに計画案を作っていく中で、皆様方の御意見やお知恵をお貸しいただきたいということで、随時お願いに回ることになると思いますが、よろしく願いいたします。
本日は、長時間に渡りありがとうございました。

事務局 ありがとうございました。
以上で、平成２８年度第１回千葉県スポーツ推進審議会を閉会します。